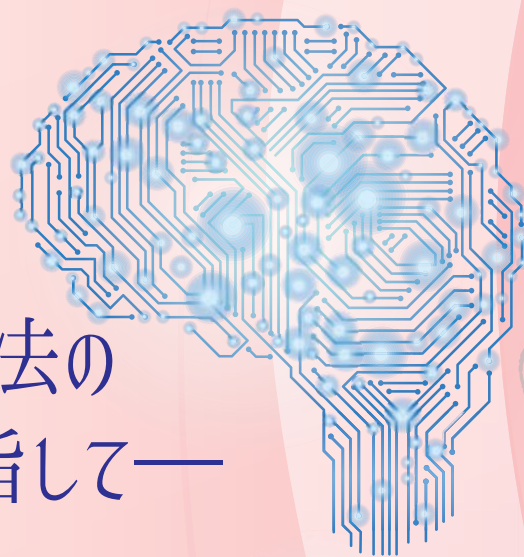


第二十三回

最先端医療イノベーションセンター

定例セミナー



—反復経頭蓋磁気刺激療法の 簡便化、在宅を目指して—

脳神経機能再生学では、反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)を簡便化し、最終的には在宅で使用していただくことを目指している。

rTMS自体は昨年9月、本邦でも、うつ病に対して米国製の機器が承認され、新しい非薬物療法として注目されている。今後、機器をエコで小型化し、取り扱いを簡便にすることで、小規模クリニックでも使用できるようになる。また在宅治療も可能にすることで、難治性疼痛、リハビリ、パーキンソン病、認知症などへの応用が広がると考えられる。

今回は、難治性疼痛とアルツハイマー型認知症への教室の取り組みを紹介したい。

「帝人ファーマ（株）の紹介」

中村 仁志 帝人ファーマ(株)在宅医療開発推進部・
大阪大学大学院医学系研究科 招へい教員

「難治性疼痛治療に対する反復経頭蓋磁気刺激療法」

細見 晃一 脳神経機能再生学共同研究講座 特任講師

「アルツハイマー型認知症に対する反復経頭蓋磁気刺激療法の試み」

眞野 智生 脳神経機能再生学共同研究講座 特任講師

座長：齋藤 洋一 脳神経機能再生学共同研究講座 特任教授



お問い合わせ先
最先端医療イノベーションセンター事務室
06-6210-8201
i-sentaninobe@office.osaka-u.ac.jp

2019.1.15 (火)
18:00~19:00

於 最先端医療イノベーションセンター棟
1F マルチメディアホール